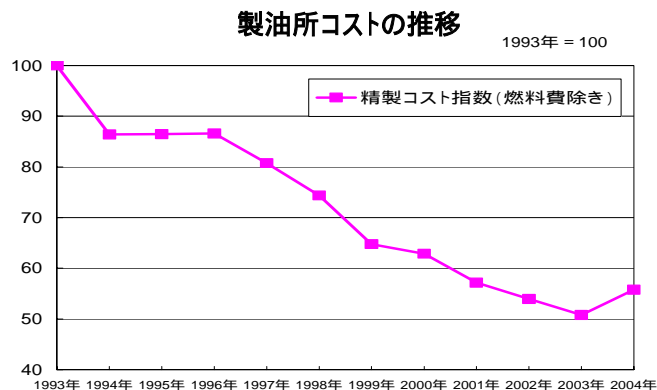
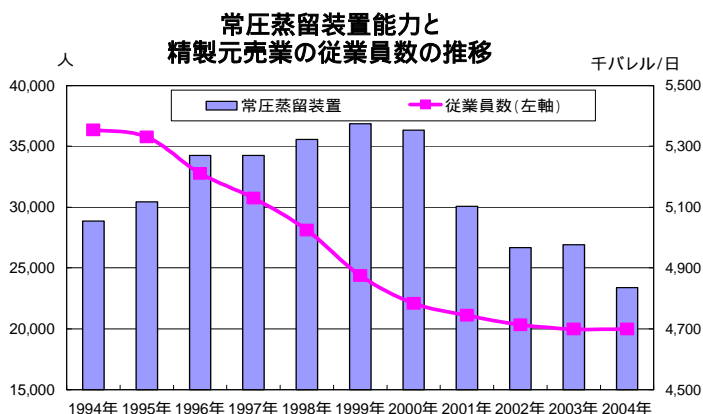


最近の原油価格高騰と石油業界の現状について

1. これまで効率化・合理化に努めた結果、石油の供給コストの大幅な削減を達成

- 精製・元売業の従業員の大幅な削減 → 約16,370人の削減(1994年度比45%減)
- 国内の精製能力の削減 → 54万B/Dの削減(1999年度比10%減)
- 製油所コストの大幅な削減 → 44%削減(1993年度比)



一方で、ガソリン・軽油のサルファーフリー化など巨額な環境対策投資を実施
(1970年以降の環境対策投資額)

重油脱硫	約5,500億円	} 約1兆5,000億円
ガソリン無鉛化・ベンゼン低減化	約4,400億円	
軽油低硫黄化、ガソリン・軽油のサルファーフリー化等	約5,000億円	

2. 最近の原油価格の高騰によって、年間で約4兆円ものコストアップが発生

(為替レートの変動)	1KL当たり変動額	燃料油内需	年間影響額
±1円/\$ の変化	±約400円/KL	× 243百万KL	= ±970億円/年
(原油価格の変動)			
±1\$/Bblの変化	±約730円/KL	× 243百万KL	= ±1,770億円/年

年初(2005年1月)からの原油価格の上昇 約20ドル/バレル (年初からの円安を考慮)
104円/ドル 116円/ドル

20ドル/バレル × 1,770億円 = 3兆5千億円 → 約4兆円 (年間影響額)

【参考】 2004年度の増益は、主に在庫評価の影響と石化部門の増益によるもの。依然として経営体質は脆弱。

(石油会社の営業利益(主要6社))

2003年度	2,835億円	→	2004年度	6,155億円	3,320億円の増益										
<p><内訳></p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>在庫評価の影響</td><td>1,400億円</td></tr> <tr><td>石化部門の増益</td><td>950億円</td></tr> <tr><td>開発他部門の増益</td><td>450億円</td></tr> <tr><td>石油部門のコスト削減</td><td>1,000億円</td></tr> <tr><td>原油コストの転嫁不足</td><td>500億円</td></tr> </tbody> </table>						在庫評価の影響	1,400億円	石化部門の増益	950億円	開発他部門の増益	450億円	石油部門のコスト削減	1,000億円	原油コストの転嫁不足	500億円
在庫評価の影響	1,400億円														
石化部門の増益	950億円														
開発他部門の増益	450億円														
石油部門のコスト削減	1,000億円														
原油コストの転嫁不足	500億円														

他産業と石油精製・元売業の売上高経常利益率

	鉄鋼3社	自動車4社	ガス3社	電力10社	製造業742社	石油6社
2003年度	5.6	9.1	9.8	7.3	5.6	1.8
2004年度	10.9	8.7	10.2	9.0	6.4	3.8